

2014-15 年度カリキュラム報告

—アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—

大 竹 弘 子

1 はじめに

横浜にあるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。本センターでは、40 週間におよぶ年間コースと、7 週間の夏期コース、3 週間の漢文夏期集中コースの、3 種類の日本語プログラムを実施している。2014-15 年度の年間コース修了生は 56 名、それに続く 2015 年 6 月から 8 月の夏期コース修了生は 38 名、2015 年 6 月から 7 月の漢文コース修了生は 6 名であった(この年報の別項を参照)。以下に 2014-15 年度の、40 週間の年間コース実施内容を報告する。

2 年間コースの概観

2014 年 9 月 1 日から翌 2015 年 6 月 5 日までの 40 週間にわたって年間コースを実施した。本コースは 4 つの学期からなり、9 月開始から 10 月末の秋休みまでを第 1 学期、11 月から 12 月の冬休みまでを第 2 学期、翌新年 1 月から 3 月の春休みまでを第 3 学期、そして春休み明け以降コース終了までを第 4 学期とし、1～2 学期をまとめて前期と呼び、3～4 学期を後期と呼んでいる(表参照)。

午前と午後の授業の違いを端的にまとめると、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前は「文法復習」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語」「上級日本語」を必修科目とし、後期には選択必修科目「選択 A」「選択 B」を「統合日本語 II」「上級日本語」と並行して実施した。午後は「総合運用」が 1 学期から 3 学期まで続き、4 学期の午後は「プロジェクトワーク/日本語 N1 クラス/個別指導(うち 1 つを選択)」を行った。各学期の教育内容を以下に記す。

2014-2015 年度 40 週間の年間コース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業 水曜は午後のクラスなし			
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑		
2					
3	文法復習				
4	Japanese Grammar Review		1 学期		
5		総合運用 I	9/1-10/24		
6		Applied Japanese Skills I	8 週間		
7	待遇表現				
8	Formal Expressions		↓		
9	秋休み 1 週間 10 月 25 日(土)～11 月 3 日(月)				
10	接続表現		↑		
11	Conjunctive Expressions				
12		総合運用 II	2 学期		
13	統合日本語 I	Applied Japanese Skills II	11/4-12/19		
14	IJ: Integrated Japanese		7 週間		
15	Advanced Course I				
16			↓		
17-19	冬休み 3 週間 12 月 20 日(土)～1 月 12 日(月)				
20	統合 日本語 II IJ II	選択 A Elective Course A	選択 B	↑	
21				総合運用 III Applied Japanese Skills III	
22					3 学期
23					1/13-3/6
24					8 週間
25					
26					
27					↓
27		個人面談			
28-29	春休み 2 週間 3 月 7 日(土)～3 月 22 日(日)				
30	上級 日本語 Advanced Japanese	選 択 A	選 択 B	↑	
31				プロジェクトワーク/ クラス授業/個別指導 Project Work/Class/ Directed Research	
32					4 学期
33					3/23-6/5
34					11 週間
35	GW 休み 1 週間 4 月 29 日(水)～5 月 6 日(水)				
36	上級 日本語	選択 A	B	授業は実質	
37				プロジェクトワークなど	8 週間
38					
39	試験 5/25 月、発表準備				
40	発表 6/3-4 水木、面談 6/5 金	試験 5/25 月、発表準備	発表 6/3-4 水木、面談 6/5 金	↓	

3 第1学期の教育内容

1学期から3学期を通し、午前の授業は月曜から金曜までの5日間50分授業を2コマ（途中10分間休憩）行い、昼食をはさみ午後は水曜を除く4日間100分間授業を1コマ行った。

3-1 文法復習

入学直後の1学期午前にはまず、中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。本センター編集発行の『An Introduction to Advanced Spoken Japanese』（略称 ASJ）あるいは本センターで作成した内部教材『Japanese Grammar』（略称 JG）のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使い分けた。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現」（動画スキット全4回）を導入した。午前20日間40コマをこの指導にあてた。

3-2 待遇表現

文法復習に続く午前の授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として本センター編集発行の『待遇表現』を用いた。この待遇表現の指導に午前10日間20コマをあてた。

3-3 総合運用 I

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて新聞やニュースを教材とする社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。午後17日間×100分をあてた。

4 第2学期の教育内容

4-1 接続表現

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。教材として本センター開発の内部教材「接続表現」を用いた。午前9日間18コマをこの指導にあてた。

4-2 統合日本語Ⅰ

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、独自開発教材『統合日本語 Integrated Japanese Advanced Course』を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻1～3課を第2学期に、下巻4～5課を第3学期に扱った(5-1節「統合日本語Ⅱ」参照)。月曜から金曜の午前22日間44コマを統合日本語Ⅰの指導にあてた。このうち12/17水の午前2時間をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅰ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

4-3 総合運用Ⅱ

一般的な社会問題をめぐる生教材、つまり読物と関連ビデオ(例えば報道番組)などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用Ⅱでは、話題シラバスのモジュール型教材群「文化の発信」「ものづくり」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「現代の若者たち」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。月火木の午後21日間×100分を総合運用Ⅱの学習指導にあてた。

5 第3学期の教育内容

冬休みが明けた新年の1月から第3学期が始まる。3学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。必ず履修すべき授業時間数はコース前半と同じく、午前50分授業2コマ5日間、午後は水曜以外100分授業4日間で変わらない。午前は、火曜と水曜に統合日本語Ⅱ、月曜と金曜に選択A、木曜に選択Bを配し、午後4日間(水曜以外)は総合運用Ⅲを実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択Cを設けた。

5-1 統合日本語Ⅱ

3学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」だけである。週2日、火曜と水曜の午前2コマずつ計4コマ「統合日本語Ⅱ」を実施した。3学期最終週の授業2日間(3/3火と3/4水)をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3学期の火曜と水曜の午前15日間30コマをあてた。

5-2 選択 A

3～4学期の午前週2回（月曜と金曜）各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には3～4学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生が多々いるので、「選択 A コースお試しクラス」と称して2学期の午後 13:20-15:00 の授業1日（12/5 金曜）を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」の6つで、月曜と金曜の午前に3学期15日間30コマ、4学期に16日間32コマをあてた。

5-2-1 文化人類学

今年度は言語学に関心のある学生と、文化人類学的研究をしている学生とに分け、クラスを運営した。具体的には、文化人類学、言語学の研究・調査報告を読み、現代日本社会について議論した。3学期は「フィールドワークと方法論」「近代家族」「グローバル化」「性的少数者とジェンダー」「都市とテクノロジー」等を主要なテーマに設定し、学生の専門に応じた読み物を教材とした。ミニフィールドワーク、校外学習も行った。4学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進めた。

5-2-2 政治経済

3学期は日本の「政治・経済」に関する記事や文献が理解できるよう、政治学や経済学の一般向け入門書を教材とし、基本的な知識と語彙を充実させた。4学期は学生の希望に応じ、「安全保障」「日中関係」「日韓関係」「マーケティング」「企業分析」などの話題を取り上げた。また、3学期に国会見学を実施し、4学期に「日本における起業」「東日本大震災の復興状況」というテーマで学外講師2名にそれぞれ話してもらった。

5-2-3 美術史

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語・概念、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、それをもとに議論した。「日本美術誕生」「身辺図像学」「視線のポリティクス」「琳派と Rimpanazation」「"画聖"雪舟をめぐる言説」「岡倉天心と明治の文化行政」「アヴァンギャルド」「東洋美術の『様式』」「荒地派」「戦前の映画批評」「日本ヌーヴェルヴァーグ」「建築」「明治の翻訳語と日本の美的表現」などのテーマを扱い、美術館見学、映画・演劇鑑賞を行った。

5-2-4 文学

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、様々な観点から作品を分

析し、話し合いを行った。おおむね2～3回で1作品を読んだ。4学期は明治期の作品を中心とするクラス、現代作品を中心とするクラスを設けた。

5-2-5 歴史

日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。3学期は学生の興味・関心・必要性に応じて、専門書および一次史料を素材とする読解練習を行った。4学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。

5-2-6 法律

日本の法律全般、特に憲法、民法、刑法、国際法等について、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、日本大学法学部大学院のゼミ聴講、裁判所・検察庁見学等の活動を授業と結び付ける形でを行った。

5-3 選択 B

選択 B では日本語力の増強あるいは周辺分野の指導のために「アカデミックスピーキング I」「ビジネス日本語 I」「リスニング I」「リーディング」の4コースを開講した。木曜日の午前8日間16コマをあてた。

5-3-1 アカデミックスピーキング I

大学院での演習場面を想定し、発話力伸張の訓練を行った。具体的には、発表者、司会者、参加者の役割を順次担当しつつ、専門的な分野で議論を深めるスキルの向上を目指した。発表者は要旨と論点を事前に準備し当日資料を配付した。

5-3-2 ビジネス日本語 I

就職活動を経て新社会人として働く場で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ねた。さらに模擬就職面接を行い事例に即した解説を加えながら実践指導をした(5-5-3節「ビジネス」参照)。

5-3-3 リスニング I

2分程度のニュースや情報番組の精聴練習を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを共同再生した。

5-3-4 リーディング

精読の練習として「日本人論」などに関する評論文を素材に用いて論旨の展開を読み取る訓練を積んだ。

5-4 総合運用Ⅲ

3学期の午後は「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」のうち1コースを選択する。どれも、読物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。水曜を除く月火木金の午後24日間×100分を総合Ⅲの学習指導にあてた。

5-4-1 現代史

ムービーフィルムが残されている1900年前後からの日本の歴史を、「戦前の日本1900-45」「敗戦と復興1945-55」「高度成長1955-70」「現代の日本1970-95」の4期に分け、ビデオと読み物で概観した。また、クラスごとに学生が興味を持つ話題を取り上げた。

5-4-2 大衆文化

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「マンガと教育」「映画とオタク」「言葉と音楽」というテーマで資料を読み、話し合った。また、コース最後には、「これって文化」というテーマで学生各自が発表した。

5-4-3 ビジネス・社会

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」「大震災後」などの話題を取り上げた。

5-5 選択C

3～4学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の3コースを開設した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

5-5-1 文語文法

文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、コース半ばからは文語作品の読解も並行して行った。木曜15時10分～16時50分に開講した。

5-5-2 漢文

日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜13時20分～15時00分に開講した。

5-5-3 ビジネス

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し、今後の展望と課題について講義した。選択 B「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、神奈川経済同友会の湧井敏雄が指導に当たった（5-3-2 節を参照）。

6 第4学期の教育内容

プログラム最後の 4 学期の午前は、月曜と金曜に「選択 A」が 3 学期から継続するほかは、火・水の「上級日本語」と木曜の「選択 B」は 4 学期の独立したコースである。

また午後は 1～3 学期を通じて全学生が「総合運用」というクラス授業で学習を進めたが、4 学期の午後は「日本語 N1 クラス」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち 1 つの学習形態を選択し学習を進めた。

6-1 上級日本語

4 学期の火曜と水曜の 2 日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。標準的なクラスでは「対談・インタビュー」「評論」「論説」「論文」などの読み物素材を扱いながら、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。なお各クラスとも学生の到達度、興味、要望に応じて各種の教材を選択・補足しながら活発な授業運営を目指した。15 日間 30 コマをあてた。また、全クラスを通じ、センター終了後の社会活動を円滑に行うための技能の一環として、改まった形の「礼状」を書く活動を行った。

6-2 選択 B

4 学期の木曜日に「アカデミックスピーキングⅡ」「ビジネス日本語Ⅱ」「ライティング」「日本文化論」「現代小説」の 5 コースを開設した。なお 3 学期と 4 学期の選択 B はそれぞれ独立したものであるため、例えば、話すことが苦手な学生は 3 学期に「アカデミックスピーキングⅠ」を履修し 4 学期にも「アカデミックスピーキングⅡ」を履修して発話力を集中的に強化することもできるし、あるいは 3 学期に「リスニングⅠ」を 4 学期に「ライティング」を履修して総合力の増進を目指すこともできる。8 日間 16 コマをあてた。

6-2-1 アカデミックスピーキングⅡ

ゼミや学会発表の場面を想定し、会話力伸張の訓練を行った。具体的には、担当者が問題提起として要点をまとめて提示し、参加者は事前に配付された資料の内容を踏まえた上

でその場で議論を組み立て、臨機応変に話題に対応しながら話し合いを進める練習を行った。全員での討論も随時取り入れながら抽象概念を伝えあう技術の向上を目指した。

6-2-2 ビジネス日本語Ⅱ

日本での就職を希望する学生を対象とし、市販の教科書を用いて、ビジネス場面における慣用表現を学習した。また、各自興味がある企業を一社選び、①その企業の紹介、②SWOT分析（経営戦略を検討するための手法）、③問題点の指摘とその改善方法の提案、というテーマで発表、全体で議論をし、プレゼンテーションとディスカッションの技術習得を目指した。

6-2-3 ライティング

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

6-2-4 日本文化論

青木保著『日本文化論の変容』を素材とするクラスと、現代の日本の若者について、様々な資料を扱うクラスとに分けて実施した。どちらのクラスも、各学生が担当箇所を分担し、担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付したり、本文内容の理解不十分な点を確認した。

6-2-5 現代小説

現代作家による短編小説を毎週、あるいは2週間で1作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、宮部みゆき、村上龍、川上弘美、綿谷りさ、筒井康隆、江戸川乱歩などの短編を扱った。

6-3 4学期午後

4学期の午後は「日本語N1クラス授業」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択して学習を進めた。

6-3-1 日本語N1クラス

日本語能力試験N1（旧1級）レベルの高度な上級文型の習得を目指して、100分のクラス授業を週2回、計16回行った。市販の問題集を使用して文型の知識増強を図り、また、読解、聴解を含めて模擬試験形式の練習も行った。

6-3-2 プロジェクトワーク

このプロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週 50 分間個別の助言を受けながら、実地の調査研究や文献の読解などを行った。

6-3-3 個別指導

クラス授業では対応できない、日本語に関する特定の需要を満たすためのコースである。学生が主体的に目標を設定し学習計画を立て、教員から個別の助言を受けながら各自が必要とする課題に取り組んだ。

7 通年で実施した学習指導と行事など

40 週間にわたるプログラム期間中、教室における通常の授業に加えて、日本語の習得を促す数多くの機会を織り込んだ。以下にその代表的な活動を紹介する。

7-1 評価と個人面談

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業間際に実力試験を実施した。内容は、読解と漢字の筆記試験、テープによる聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。

試験結果をもとに 1 学期のクラス（午前 8 組午後 7 組）を編成した。午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ 40 週にわたる学習の指針などを助言した。1 学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会をその後も各学期末に設けた。2 学期末と 3 学期末の面談はそれぞれ午前のクラス担任が行い、4 学期末つまり卒業時は 1 学期と同じ教師が同じ学生と面談し年間を総括した。

クラスは学期ごとに午前・午後とも必要性を考慮した上で可能な限り編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気の維持を図った。

7-2 漢字プログラム

常用漢字習得のための自律学習プログラムである。教材として本センター編集発行の市販教材『Kanji in Context』（ジャパントイムズ社刊）とその補助教材を用いる。これは漢字を単独ではなく、熟語や例文と共に学習できる内容構成となっている。学生は常用漢字すべてを卒業までに習得できるよう、毎日教材を独習し、授業以外の時間にクイズを受けることが奨励されている。

2010年の常用漢字改訂（5字削除196字追加、計2136字）を受け、『Kanji in Context』『Kanji in Context Work Book vol. 1・2』の改訂新版が2013年12月に出版され、今年度から新版を教材として用いている。また、今年度より漢字学習をさらに促すために「KIC統一試験」を実施することとし、その問題作成のために、[Webアプリケーション WebKIC](#)の開発を行った。このアプリケーションは、学生が自分の漢字習熟度を確認するためにも利用できる。統一試験は、漢字・漢語の読み方や意味などを書かせる問題50問を全学生が受け、点数が8割未満の場合は再試験を受けなければならないとした。今年度は、毎学期1～2回、計7回実施した。

7-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を3回（11/14, 2/6, 5/13）そして全学生が参加する校外学習を1回（9/29）開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。これら各種の催しを実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが仲介し学生に参加を奨励した催事など、大小とりまぜて記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした有料の課外活動「書道」と「古筆」のコースを書家の小林紘子が担当した。「書道」は年間を通じて火曜15時15分～16時45分に実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ掛軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない、くずし字の読解練習を段階的に進めた。

8 卒業発表

卒業発表会は10か月間にわたる学習を締めくくる催しである。全学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め1人15分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。今年度は全員個人発表であった。

4学期の午後の授業がプロジェクトワークあるいは個別指導の学生は、その時間内に卒業発表の準備を進めた。日本語N1クラスの学生はミニ発表会（2・3学期「統合日本語」）などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N1クラスの各学生には1人2時間分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

本センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。http://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html

9 おわりに

本年度は学生数が56名で、例年に比べ多く、クラスサイズがやや大きくなったが、学習意欲は高く、充実した40週コースとなった。

また、プログラムの面では、漢字テキスト『Kanji in Context』『Kanji in Context Work Book vol. 1・2』（ジャパントイムズ社刊）が全面的に改訂出版され、それに基づき漢字プログラムをさらに充実させることができた。各学期1～2回、学生全員に漢字統一テストを実施し、漢字学習の進捗状況を確認することで、例年より到達度が上がったことが確認できた。今後もコース、プログラムの充実を図りたい。

(おおたけ ひろこ／本センター言語課程主任)

【資料】2014-15年度 通常授業以外の各種イベント情報

2014年

- 9月 3日 (水) SKIP とコンピュータ学習の説明
- 9月 8日 (月) 防災説明会、避難訓練
- 9月 9日 (火) 発音学習説明、漢字学習説明
- 9月 12日 (金) 入学歓迎親睦会
- 9月 14日 (日) 国立能楽堂金春流能狂言
- 9月 19日 (金) 米国大使館公使 Jason P. Hyland 氏 1979 卒 センター訪問
- 9月 26日 (金) ハワイ大学法学部教授 Mark Levin 氏 1993 卒 懇談会
- 9月 26日 (金) 産学国際研修 みなと横浜改造市民会議横浜クルーズ
- 9月 29日 (月) 校外学習 ロータリークラブ主催 総持寺にて座禅写経精進料理体験
- 9月 30日 (火) 課外クラブ「書道」開始 (説明会 9/22)
- 10月 4日 (土) 鶴岡八幡宮「流鏝馬神事」
- 10月 5日 (日) 国立能楽堂金春流能狂言
- 10月 10日 (金) みなとみらい 21 カモメスクールイベント 学生との交流会
- 10月 24日 (金) 山城経営研究所 懇談会
- 10月 25日 (土) 第一回産学国際研修 みなと横浜改造市民会議主催
以降 講演、見学ツアー等 横浜についての講演会随時
- 10月 31日 (金) 横浜市立大学「浜大祭」学内ツアー
- 11月 9日 (金) 国立能楽堂金春流能狂言
- 11月 14日 (金) 横浜にぎわい座民謡コンサート
- 11月 14日 (金) 講演会 日米協会副会長久野明子氏
「最初の日本人女性留学生 大山捨松」
- 11月 17日 (月) 米国国務省日本語研修所 Gary Oba 氏 懇談会
- 11月 22日 (土) 横浜能楽堂「かもんやま能」
- 11月 28日 (金) 漢字検定・JBT 説明会
- 11月 29日 (土) 明治大学伊勢弘志先生主催 若手研究者ネットワークツアー
- 12月 10日 (水) 文楽鑑賞教室 国立劇場
- 12月 12日 (金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介と交流会
- 12月 16日 (火) 鶴岡八幡宮 セミナーと「御神楽」

2015 年

- 1 月 18 日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 1 月 20 日 (火) 課外授業「古筆」説明会
- 2 月 3 日 (火) 巖島神社(関内)「節分祭」
- 2 月 6 日 (金) 日本財団講演会 ハーバード大学教授 Andrew Gordon 氏 1974 卒
「雇用の社会史からひもとく「失われた 20 年」」
- 2 月 7 日 (土) 日米学生交流会 大倉山記念館
- 2 月 16 日 (月) アーバンコネクションズ Benjamin Turk 氏 2012 卒、
同社 CEO Larry Greenberg 氏
会社説明、就職に関する情報交換
- 2 月 19 日 (木) 株式会社サンブリッジ 代表取締役会長兼 CEO Allen Miner 氏 懇談会
- 2 月 23 日 (月) Benjamin Boas 氏 2009 卒 翻訳・通訳・出版などに関する懇談会
- 3 月 4 日 (水) Intralink 社 Project Coordinator Joseph Tolsma 氏 2012 卒
就職に関する情報交換と会社説明
- 3 月 8 日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 4 月 5 日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 5 月 5 日 (火) 鶴岡八幡宮「菖蒲祭・舞楽奉納」
- 5 月 5 日～6 日 (火・水) 長野県中野市 学生との国際交流
- 5 月 11 日 (月) 明治大学伊勢弘志先生主催研究会
- 5 月 13 日 (水) 日本財団講演会 同志社女子大学教授 Juliet Carpenter 氏 1970 卒
「文学翻訳にまつわる難問」
- 5 月 11 日 (月)～22 日 (金) 日本大学大学院社会科学系授業聴講
- 5 月 15 日 (金)～17 日 (日) 下田市主催「黒船祭り」
- 6 月 3 日 (水)～4 日 (木) 卒業発表会
- 6 月 5 日 (金) 卒業式、卒業祝賀会
- 6 月 7 日 (日) 国立能楽堂 能・狂言